

## <指導上のポイント>

数能力を育成する際に、数を数量として認識させる指導はとても大切です。しかし、小学校一年生ぐらいまでの問題では、手で数を数えても答えは同じになりますが、この方法では数を感じることができませんし、数学教育の目的を見失ってしまっている現行の教育体制では、いつまでたっても数論理能力は育ちません。

この「数と計算」の問題では、1, 2, 3と数えるのではなくて、2～5のかたまりに数を分解して合成する捉え方が基本になります。この本の問題を解く前に、1～12までの数を、2～5のかたまりに分けて瞬時に捉える能力を養成しておかないと、数を数える際の最も低い能力である1, 2, 3と数えていく方法でしか解答できなくなりますが、それではこの本の意味がなくなります。

さて、問題の解法ですが、1～3ページの多少把握の問題は、同時に左右や全部の絵を見るようにさせて、瞬時に数の多少が感じられるかどうかの問題です。必ず、同時に見るように指導してください。

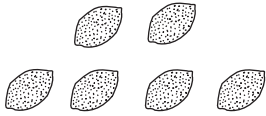
4, 5ページの問題は、全てを視野にいれつつ、一番のものを見つけるようにしてください。

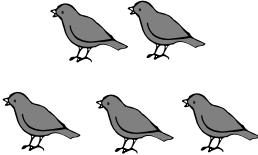
6～8ページの数・異数発見問題も、基本はこれまでと同じです。全てを視野に入れながら、比較・判断させてください。

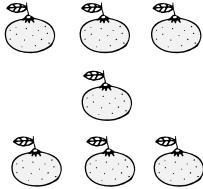
以上の問題解決の基礎能力として、瞬時に数を2～5に分解合成する能力が必要なことは言うまでもありません。この分解合成能力の有無をチェックし、育成するのが、このレベルの数の問題における目的です。数の分解合成能力が、足し算・引き算をはじめ数学全般にわたる基礎能力だということを忘れないでください。

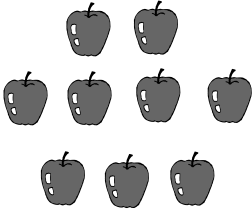
以上のことを参考にして、この本を上手に利用してください。

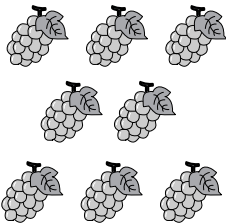
<例題 1 > 左の絵の数だけ、右の箱に○をかきましょう。

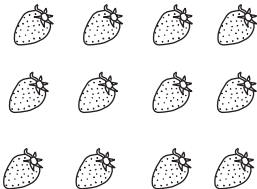
						


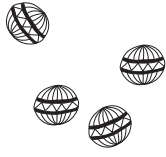
						

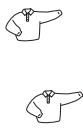
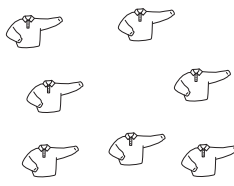
						

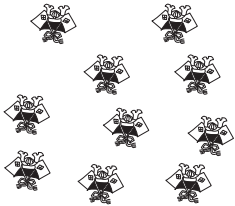

						

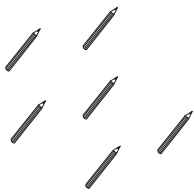
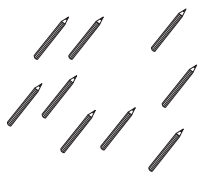
<例題 6 > 左の絵と右の絵を合わせるといくつになりますか？  
 右の箱の中に、その数だけ○をかきなさい。

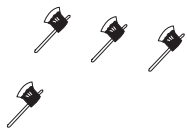
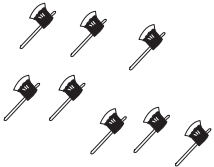
		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															




		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															





		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															




		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

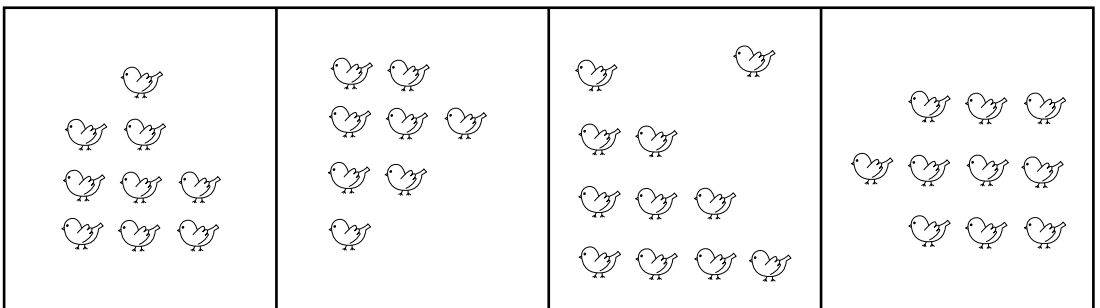
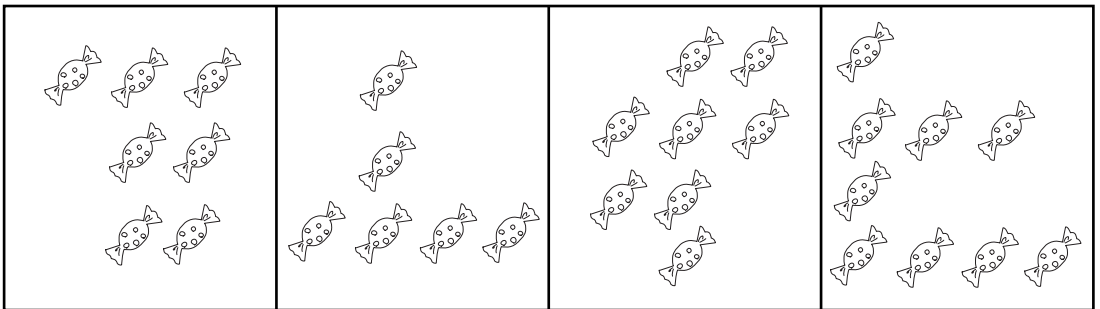
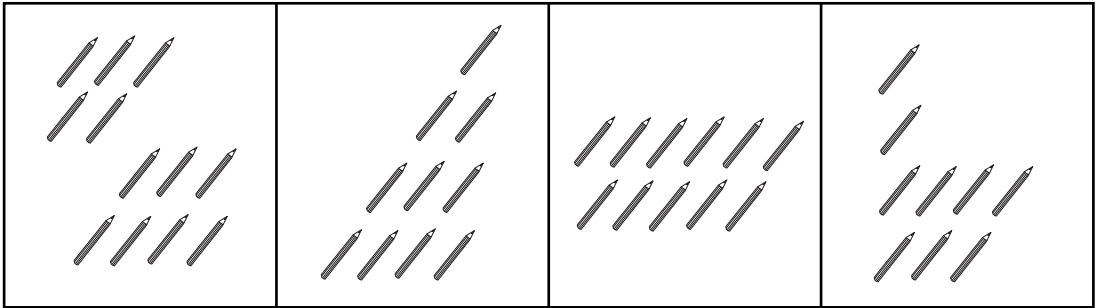
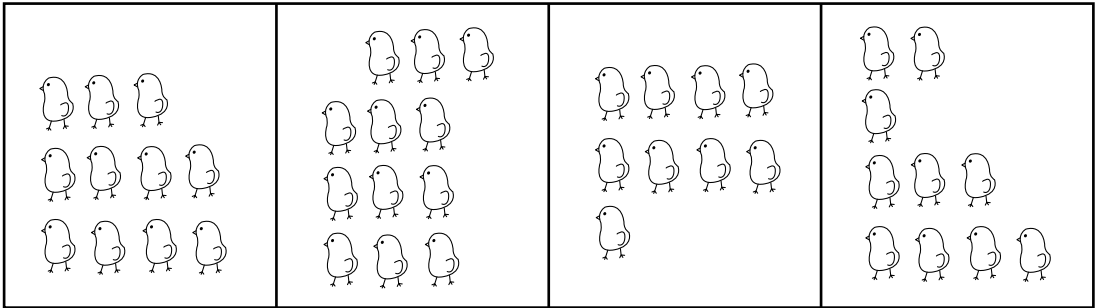
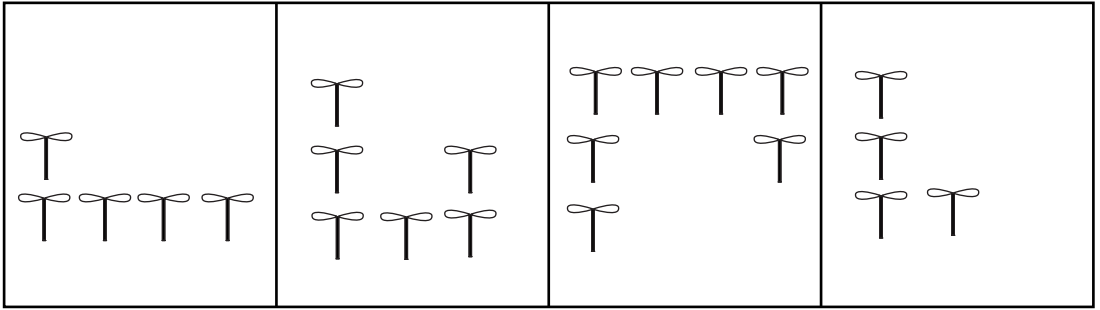
<例題11> 左の乗り物の車輪の数だけ、右の口の中に  
○をかきましょう。




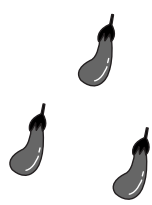

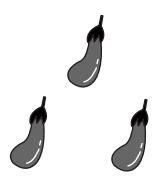
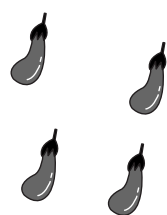
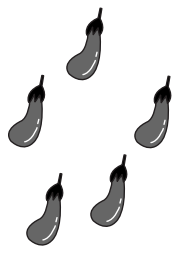

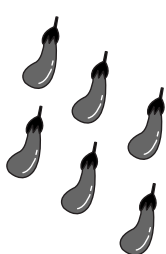
   						

<例題3>の類題② 一番数の多いものに○を、一番数の少ないものに△をつけましょう。



<例題 6 >の類題② 左の絵と右の絵を合わせるといくつになりますか？右の箱の中に、その数だけ○をかきなさい。

<例題11>の類題 左の乗り物の車輪の数だけ、右の口の中に○をかきましょう。

